

パフィオペディラム の栽培管理方法



Paph. Kevin Porter

[植替え]

パフィオは根がすくない為特に植替えのときに根をいためないように注意します。植え替えは花のすんだ春温度が 10 以上あればなるべく早く行います。斑入り葉種では秋の 10 月頃も好適です。真夏は植え換えしません。

コンポストは素焼き鉢に水苔、またはプラ鉢にパーク植えが一般的です。

パーク植えの場合は水苔に比し肥料は多い目に与えます。

[置き場所]

冬.....最低 5~10 が保てる明るい室内。

(3 以上あれば冬は越します。)

温室の場合は 30~50% 遮光。

春~秋(4月下旬~10月下旬)

室外の風通しのよい半日陰。

温室の場合は 50~70% の遮光。

夏の夕方に鉢の回りに打ち水をすると効果的。

作り易い品種

ツヤイケダ

ミラズ ドーター

ロビンフッド

モーディエ(斑入り葉)

クレアドルーン(斑入り葉)

グリーンビル・ザ グローブ

ヘンリエッタ フジワラ

オリビア

カローサム(原種)

ワーディエー(原種)

ウォルテリアナム(原種)

その他、次々と新しい品種が発表されています。

[性質]

原産地は中国南部、東南アジア、インドに 60 種ほど自生しその性質や外観から 無地緑葉種、斑入り葉種、矮性種、多花性種の 4 タイプに分類され、それぞれに管理も異なります。

一般的に出回っているのは 無地緑葉種と 斑入り葉種です。

一般的に半日陰を好み 70~80% の湿度と適当な風通しを好みバルブがない為過乾燥を嫌います。日本の夏はやや暑すぎるので夏はなるべく涼しく管理します。また斑入り葉系は年 2 度咲くものがあります。

[肥料]

春先に 1 度置き肥えをする。あとは真夏以外 2000 倍くらいの薄い液肥を週 1 回与えます。

肥料があつてひどく乾かすと根が痛みます。

[水]

冬.....最低温度が 5~10 の場合は、コンポストが乾き気味になったら暖かい日の午前中にぬるま湯を。

最低温度が 10 以上保てる場合は 2~3 日に 1 度灌水。又、室内が乾燥しやすい場合は 1 日 2~3 回の葉水が効果的です。

春~秋.....4 月下旬~10 月上旬は 1~2 日に 1 度充分に灌水。盛夏は毎日 1 回と夕方の葉水が効果的です。秋の彼岸以降は水を控えて行きます。

[お問い合わせは]

〒 441 - 3613

愛知県渥美郡渥美町大字古田
字原 66

スズキラン園

TEL 0531 32 - 0879

FAX 0531 - 32 - 1110

E-mail info@orchid.ne.jp

ホームページ

<http://orchid.ne.jp>